

千曲会報

No. 170

編集発行人 小山 長 雄
発行所 社団法人 千曲 会

長野県上田市常入 信州大学繊維学部
振替 長野 6243, 東京 43341
電話 上田(2)1215(代表), (2)1218(直通)



鈍 刀 乱 麻 (5)

——養蚕関係者への生物学的干涉——(その4)

こ や ま ・ な が お

「暮しの手帖」の教えるもの

花森安治という女だが男だかわからない男がやっている季刊誌に「暮しの手帖」というのがあります。広告をとらずいいことをズケズケといてのける近來まれな良心的な出版物です。とくに、人間工学的手法で生活に密接する用具・機械をテスト、綿密周到な評価をくださあたりは胸がすっとする思いです。「この会社のアイロンはここがわるい」「こげつかないフライパンと称するものはぜんぶマヤカシモノである」「石油ストーブは〇〇社製のものがいまのところ最高である」などと決断をくださるので、当該会社にとってはかなりの脅威でしょう。反対に「当社の製品は暮しの手帖でも推奨されています」と大いに利用するものもあります。とにかく出版費の50～60%は広告でまかなうという、この種の雑誌に類例のない持味があって痛快です。ちょうど、私が蚕糸業という純粋のジャンルに埋没していないからこそ、いいたいほうだいのごとがいえるのと同じようなものかもしれません。

さて、それはともかく、この本の初夏95号(6月号)の36～51頁をみると、紬(つむぎ)にかんする特集があり、その36～43頁にかけて喜多川歌麿の筆になる「女織蚕手業草」(によしょく・かいこ・てわざぐさ)12枚の浮世絵が掲載されています。これはカイコの掃立から手織りまでの作業順序を手ぎわよく図解したものです。浮世絵としては風変りの題材であるうえに、なにしろ思いもよらぬ歌麿がかいたものだということで、珍品中の珍



品だそうです。ところが、この絵の中の2枚が私の強い関心をよびました。その1枚はカイコガを交尾させている絵柄で(下図)、他の1枚は産卵後のカイコガが3匹窓へとびだし、それを子供が指さしているものです(2頁図)。「カイコガが飛ぶ」——いまの養蚕関係者はよくこれを想像したでしょうか。現在のカイコは、すでに述べてきたように絹糸物質の増量淘汰への代償として、まったく「飛べない」昆虫と化しています。♂は交尾行動の

ときかなりはげしく羽を振動させますが、とても飛ぶことはできません。♀にいたっては太い腹をもてあまし羽を振動させる能力さえも失いかけています。

歌麿は1754年に生れ、1806年に亡くなっていますので、江戸時代、はたして本当にこのようなだったか、絵それごとではあるまいかと疑問をさしはさむ余地があります。しかし、越後に彼の友人がいて、しばしば往来してスケッチしてきたものを画材としたといいますから、おそらく真実を伝えるものと思います。

とくに私がそう信じるゆえんは、図の左方の女性が♂の蛾が飛ばないように糸でしばって持っている点です。多少絵をたしなむ私にはこれが想像でかけるものでないことだけは確言できます。

すると、江戸時代1800年代にはカイコガは飛行能力があったことになります。このような生態的観察は過去の業績をみてもつまびらかでないのは残念ですが、新潟では安政前後は又昔という品種を飼っていたのではないかと思われまゝ。明治には小石丸・又昔・青熟などという品種が普及したようですが、私の知る範囲では小石丸は

飛行力はありません。いずれにせよ、蚕業がさかんになり淘汰が加えられてから数十年の間に、カイコがはしだいに飛行能力を失っていったものと推定されます。

このように進化的時間としてはおどろくべき短時間に飛行関係筋肉を退化させたのは人間のなせる特異的淘汰の結果に相違ありません。それにしてもこのことにかんしては進化の速度の早さに驚歎せざるをえません。

カイコの作る繭は生存上必須のものでないことはさきに示唆したとおりです。繭の増量は羽の飛行力消失とほぼ平行補償的に進行したもののひとつといえましょう。昭和の初め繭層歩合は16~17%程度でしたが、15年ころは18~19%となりました。現今は品種によってちがいますがまあ20~22%というところでしょう。淘汰圧はかなり高かかっているはずですが、近年は経過年次の割合に繭層歩合は伸びていません。いま、横軸に経過年次を縦軸に繭の重量をとった相対成長的模式図(下図)を示します。A線はカイコの形態成長の上限界を示します。つまりカイコは遺伝学上特別なことのないかぎりある一定の大きさ以上のものとはできないことを意味します。カイコの成長が無限であれば、相対的に繭も大きくなり、鶏卵ぐらいの繭もできるはずですが、絹糸腺の相対成長常数 a は1.0以上ですから、ついには全繭重の $\frac{1}{2}$ を繭層がしめるつまり繭層歩合が50%にもなる理です。こんな化物みたいなカイコは生れるはずはありません。カイコは生物だからです。自己の生存をギセイにし、無役な繭を造成するわけはありません。つまり、全繭重と繭層重との間には相対比に一定のリミットがあるということです。B線は繭層重の上限界を示

したもので、Aの限界がきまれば、したがってBの限界が決定されます。さいきんのカイコは繭層が厚くなりすぎて、自分で脱出することができず、人間が繭の先端を切りおとして穴をあけ、蛾の脱出をはかっています。このようなことは自然の生物にはありえないことです。い

かにカイコが昆虫らしからぬ昆虫とはいへ、やはり生物の一種であってみれば、生命保持の論理にそむくことはついには死滅を意味します。現状でもし、もっと繭層の厚いカイコが出現したとすれば、その中の蛹は羽化が不可能になるか、ごく小形の蛾にならざるをえません。そうすれば結局、産卵量を減少して蚕業を危機にみちびきます。

私は思うのです。カイコにおける繭層増大への淘汰は生物学的にもはや限界点に達しているとみたいのです。もちろん、多少の増加は期待できますが、それよりも外にもっと重要なやるべき方向があるのではないのでしょうか。

暮しの手帖でみたカイコガ進化の速度から、全繭重と繭層の相対成長に思いをよせ、繭層は生命保持必須のものでなく、したがって生物本来の摂理にしたがえば一定の比率をこえることがなく、このことをおぼせば現在のカイコの多くは、すでに繭層歩合では上限近くに達している—これが本鈍刀の要旨です。

異論も多々ありましょう。また、拙文は斜眼視の感もありましょう。しかし、以上の観点およびその他の諸点から卒直に申せば、いまや「繭層歩合増加への淘汰」は労多くしてうとところ少なき蚕品種育成研究ということになります。妄言多謝。(筆者:小山長雄, 蚕26)

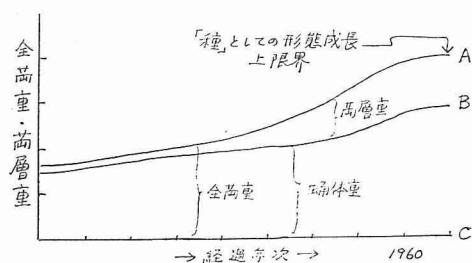


図3 繭重・繭層重の相対成長模式図

注: Allometric growth の指標

$y = b x^a$ の a は AB/AC に相当する

もと 宮城県蚕業試験場長
野口 活也 著 いま 宮城県蚕業研修館講師
(蚕13回卒)

養蚕の新技術

養蚕の指導者, 養蚕農家, 養蚕婦人向

農山漁村文化協会

東京都港区赤坂青山北町4の74

¥ 250 ㊦ 40

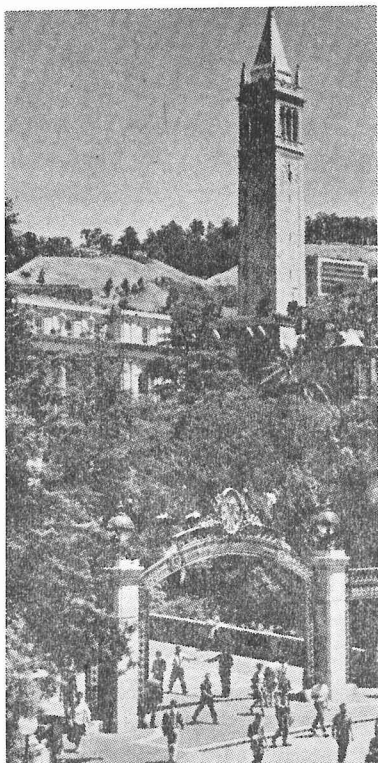
カリフォルニア大学での印象

松 尾 卓 見

4月15日に日米科学協力研究で渡米し、カリフォルニア大学（パークレー）で研究に従事し、9月4日に帰国した。その間、イギリスのマンチェスターにおける *Fusarium* 菌に関する国際研究会（Workshop）とロンドンでの第1回国際植物病理学会議に出席し、駈足旅行ながらベルリン、フランクフルト、ハイデルベルク、チューリッヒ、パリーなどを廻ることも出来た。千曲会報に何かかくようにとのことであるから、旅行を通じて感じたことを2、3しるしてみたい。

いまから何十年前か前、ちょうど私共の先生の時代には、アメリカの科学はヨーロッパ諸国に比し劣っているとみられていた。それで留学生はヨーロッパの方に流れた。いまは逆で、多くのヨーロッパ人がアメリカに留学しているが、アメリカからヨーロッパに留学しているものは極めて少ないではないかと思われる。この逆転は何に由来するのであろうか、その理由をしることに大いに興味があった。カリフォルニア大学は9つのキャンパスに11万の学生を擁するマンモス大学であるが、私のいたパークレーのキャンパスに本部があり、ここには28,000人の学生（うち10,000人は大学院学生）がおり、またノーベル賞学者が12人もいるという豪勢さであったので、その理由をさぐるのには格好な場所と思われた。

その理由の第一には、何といっても富の力をあげねばならない。ヨーロッパや日本で1講座（教授1、助教授1）しかない研究分野が、むこうでは1学部を構成し、10名ほどの教授と、それとほぼ同数の副教授（*associate professor*）と助教授（*assistant professor*）を擁することが普通である。しかも全く同様な学部が同じ大学内の他のキャンパスにもあるのであるから、比較にならない程のちがいが出てくる。学生は奨学金をうけたり教官の研究費によるアルバイトによって生活が容易で、車を買ひ、結婚することも出来る。まして職員の収入は桁ちがいに多いから、海外から優秀な研究者を集めることも容易である。この富はもちろんアメリカのひろい国



土や資源の豊富さ、科学技術の進歩に基づくものである。しかし、科学の発展の理由はこれのみではない。第二の理由として、社会運営の合理性が大いに影響していることを感じることが出来た。例えば、学部の運営は主として *chairman* のリードによるものであるが、その選出は選挙により、必ずしも教授が選ばれるとは限らない。

副教授時には助教授が選ばれることもある。administration に最もすぐれたものが選ばれるのであり、年効は問題にされないものである。助教授は大学院博士コースを終えたばかりの若者から採用されるが、同窓的色彩はきわめてうすく、学部の方針に応じこの大学からでも採用される。その助教授は6～7年のちに審査をうけ、その仕事が優れていれば副教授になるが、充分でなければ解任される。副教授以上になってはじめて終身雇用が約束される。大学院の約5ケ年間と助教授の6～7年という、人生のうちで最も活動的な11～12年を激しい競争状態におくことは、学問の進歩のために非常にうまいやり方であると思う。助手というものはない。助手に類似のものに *technician* があるが、これは助教授以上に昇進することは望めないもので、日本やヨーロッパの助手とは本

質的にちがっているものである。*technician* は正式の職員であるばかりは少なく、多くは各研究者の研究費で雇用されるものである。教授には直属の助教授や助手というものはない。いわば一匹狼である。よい仕事をして研究費を多く獲得すれば多くの *technician* を雇うことが出来るし、またよい *idea* があって指導能力が優れていれば大学院の学生や、助教授、副教授が集まって大きな組織で仕事を推進することが出来るわけである。

学生28,000人のうち10,000人は大学院学生である。従って *undergraduate*（4年制学生）をもたず大学院学生だけの学部も多い。外国人学生は2,000名くらいいるが、そのうち約1,500名が大学院の学生である。学生の単位の取得については、かなりきびしい。再試験は全然認められていないし、点の悪いものは猶予なしにより低度の

他の大学に転校しなければならない。スタンホード大学の例で、18才の数学の教授が出現したといわれているが、実力主義を徹底させればこういうこともおこるのである。現在パークレーに90名の日本人学生がいる。日本からの学生で所期の目的を達しうるものは大体20%くらいであろうとの見方がある。語学の障害が一番大きいようである。

女性の進出は予想以上であった。4年制大学に進学することはごく普通であり、全学生の約3分の1は女性であった。日本で4年制大学に進学するのと同じくらいの女性が大学院修士コースや博士コースに進んでいる。とくに小中学校の教員に女性が多いことは周知のことである。私のいた学部には事務関係者が15名ほどいたが、事務長をはじめとして全部が女性であった。結婚後もつとめているわけである。女性の服装はミニスカートが多いが、極端になって水着をきているかのようなものもみられた。中には素足でいるものもある。ボーイフレンドと歩くときも素足で、平気で街の店に入ったりするものもみられた。ミニスカートは世界的な流行で、イギリスやフランスでもみられたが、素足で街を歩くのはほかではみられなかった。

男の学生でほほひげとあごひげを生やしたものに多くおめにかかった。これが極端になればヒッピー族の顔立ちになるのであるが、ヒッピーでなくともひげを生やしたものは多い。ヒッピー族はサンフランシスコが発祥地といわれるだけあって、パークレーにも多い。無為流浪の青年群で、道教に近い思想をもっているという。生存競争のはげしいアメリカにこのような青年群があらわれたのは、一つの反動であろうか。

カリホルニア大学は進歩陣営学生の本拠地であるといわれている。たしかにベトナム戦争反対の掲示やデモも多くみられたが、一定の秩序を守っての行動であり、日本の場合は大学の管理にまではいろいろというのであるが、ここでは決してそのような動きはみられなかった。もともとアメリカには、いわゆる左翼政党は育っていないのであるが、それに照応した形で、ほどほどの動きにとどまっているのであろうか。

ロバート・ケネディの暗殺事件はショックであった。2, 3日前にマッカーシーとの対談をテレビでみて、また前夜にカリホルニア州の予備選挙で勝った笑顔をテレビでみただけに、実にいやな感じであった。アメリカ人もさすがに沈痛な様子であった。アメリカでは1年間にgunのために死ぬものが6,000人もあるという(日本ではわずかに30人余)。今度の事件で銃火器取締りが当然のように問題になったが、全米ライフル協会などの反対で簡単

にはいかないらしい。gunは紳士のスポーツであるからというのが表向きの理由らしいが、白人は黒人の暴動にそなえるために、また黒人も白人に対する護身として必要と考えているらしい。ここにも民族問題の困難さが顔を出している。

カリホルニア大学は、ちょうど今年で創立100周年で記念事業が行われていた。その最大なものはLawrence Hallの建設である。E.O.ローレンス(1901~1958)はカリホルニア大学が生んだ偉大な原子核物理学学者で、世界ではじめてサイクロトロンを建設した人である。彼はノーベル賞学者であるが、彼につづいた5人の学者がノーベル賞を獲得している。Lawrence Hallはキャンパスの東方につらなる小高い丘の上に建てられたが、科学教育の研究センターとしての目的と機能をもっている。このHallの中に世界の偉大な歴史上の科学者26名の肖像が掲げられている。それをみると、紀元前ではヒポクラテス、アリストートル、ユークリッド、アルキメデスの4名で、すべてギリシャ人である。その後はギリシャには出ていない。16, 17世紀にイタリアのガリレオが出てくるが、つづいてケプレル、ニュートン、ラバジエーなどドイツ、イギリス、フランスが多くなる。16世紀、20世紀にはこの3国が断然多い。アメリカはといえば、最後の26人目にローレンスが出ているのみである。このことは私にはむしろ意外であった。しかし考えてみると、アメリカは実に若い国なのである。

パリーやロンドンでは、歴史的遺跡や文化的集積に圧倒されるような気持を味わった。しかしそれは主として専制君主時代の遺物が多かった。パリーのメトロ(地下鉄)は30年来伸びていないという。将来を展望すれば明かに歴史は西の方に動いている。アメリカ、ソ連、そして日本も将来に期待される国とみられている。

私のいた大学付属のInternational Houseには、世界各国の学生や学者が500余名住んでいた。食事中や夜などいろいろの国の人達と話をするのに興味があつた。ここで私は彼らの日本評価について知りたいと思った。ある日本通のアイランド人は、日本はアメリカとよく似ているという。ともに新興国であり、アメリカ文化はヨーロッパのimitationであるが、日本文化も支那のimitationであり、ともに独自のものはない、technologyの発展は急激であるが、philosophyはない、との説である。私はtechnologyの発展はphilosophyが底になれば行われぬとして反論した。とにかく日本の国民生産力世界3位という現実が大いに評価されていることは事実である。日本も新興国とみられている点に大いに興味がもたれた。

(筆者: まつお・たくけん, 母校繊維農学科教授)

パラグアイ寸信 (その2)

鈴木彦佐

(承前)——パ国は経済文化あらゆる面で遅れている国であり、それだけに進展の可能性の大きい国と申せましょう。西欧の一部の国が手をつけているだけで農業国としては気候風土の点からも有望のように思えます。私のいるラプラタ県はパ国18県のうち、もっとも日本人の入植者の多い県で、11万haの土地に687戸入っているだけ、千古の原始林が見渡すかぎりつづいています。入植10年前後で年月も浅く、現在は油桐・大豆・マテ茶・棉花等が主力作物となって、一部に稲作・野菜等自活用にとり入れてある状況です。流通機構がないため、またコストの変動により農家収入は微細なもので、海外移住団としても真剣に収入の向上に努力されています。幸い養蚕導入が成功すれば、パ国に与える影響はきわめて大で、経済振興に寄与するところが多大だと思います。つぎにブラジルからアルゼンチンを訪問したときのことにふれてみます。

サンパウロより700km奥のバストスにある製糸工場と周辺の養蚕地帯を5日間視察したのですが、工場には同窓の谷内利男(学系1)・丸山栄(学系3)・五味克人(学系3)3君が大活躍されていました。私の突然の訪問と日本の近況とは何よりの贈り物のようで、さっそく千曲会伯支会をやりました。ことしも3人の卒業生が8〜9月には入社する由で、鶴首していました。天野社長さん初め谷口工場長さんは上田卒の方は真面目で立派な人物だとベタほめでしたので、私もなんだか鼻が高いような気持ちになりました。谷内君はすでに取締役で、西欧市場の視察旅行もしたようです。ポルトガル語にも精通していました。周辺の養蚕家もスケールが大きく、1戸当り2,000〜5,000kgの収穫があり、最高は山梨県出の水谷太郎さんで、3年目で12,000kgということです。これはおそらく個人では世界一でしょう。来年は20,000kgに



ブラジル・サンパウロ市



サンパウロ・バストス、水谷氏一家と、左端谷内利男君、右端丸山栄君、左から2番目筆者

するというので広大な桑園を造成中でした。バストスとサンパウロの中間にあるバウル市周辺も同様で、桑園とコーヒー園がつづきます。パアルチーナでは五味さんが乾繭所長で独立隊長として活躍中でした。自分の自動車バストスまで350km、弾丸道路で100kmの速度で走りますが、なにしろ50〜60kmの間直線道路という有様なのでまたたく間に着いてしまいます。カンピナス(人口50万)には州立蚕業試験場があり、飼育中のもの、上簇中のものと、蚕種製造所とを半日視察してきました。蚕品種はおくれておりますが、桑園造成は仲々立派でした。こんごの発展は期してまつべきものがあると思つづく感じがしたいです。

サンパウロ市には10数万の邦人が生活しているので、いたるところでお眼にかかります。その進出ぶりは見事で心強く感ぜられたことです。市内の台所をまかなう野菜類の約80%は周辺の日本人の作ったものだそうです。黒人も北米とはちがって自由に活動し生活し樂園のようです。サントス港までの60kmはだらだらの下り坂で、ちょうど箱根に似たところがあり、すばらしいハイウェイが走っています。サントスの街は日本人の移民団がきてから50年、古い歴史の街であり、その記念塔も海岸にあり、港の広大さは横浜の比ではありません。大阪商船の船が入港しており、日の丸がすごく印象的でした。海岸は20kmにわたって30〜40階建の高層ビルが立並んでいます。これらはすべて海水浴客用のホテルというから驚かざるをえません。秋に入っても日中は30°C近いのでたくさん観光客が海水浴を楽しんでいました。サンパウロより空路1時間でリオデジャネイロにつきます。世界三大美港のひとつといわれているだけに、変化のある海岸線に沿って林立する高層ビル群は紺碧の海とコントラストをなし、まったく絵のようです。まだ何千人の人が泳いでいました。夜景はさらに格別の美しさです。有名なコルコバドの丘に登り、キリスト像の下から眺めるといっそう名都の名に恥じない美観であると思いました。

海外移住事業団の南米総代表部で丸山代表に報告をし南米事情につき、種々話をきいて辞去、1日滞在ののちアルゼンチンのブエノスアイレス市まで飛行機で3時間入りしました。ブラジルとはちがった西欧風の広大な町で、人口600万といわれ、整然と区画されている市街地は百年以上の昔によくこんな立派な町を作ったものだと感心しました。街ゆく人はすでにオーバー姿で、リオとは別世界です。大学もみました。新設中で美しい、ゆとりのある建築です。革命のあとを物語る弾痕が銀行、大蔵省などにみられるのも印象的でした。海かともまごうラプラタ川に沿って空路2時間、パラグアイ国境の町ボサダスに入り、パラナ川を船で渡り、アルトパラナ移住地に戻りました。駆け足でしたが南米の養蚕地帯をみた印象は絹にたいする強い愛情と、黙々として開拓してゆくたくましい日本人のファイトであり、上田の卒業生の活躍ぶりでした。

(筆者：すずき・ひこすけ、蚕26、技術援助でパラグアイへ出張、8月帰国)

昭和41年度上田繊維科学振興会助成・成果報告

カイコの胚子培養に関する研究

小 林 勝

近時、昆虫の組織培養は生物学的な研究手段としてだけでなく、応用面でウイルスの研究対象として脚光を浴び、薬材の検定、ワクチンの製造などの手段ともなり得るために多くの分野で注目を集めている。しかし、1915年の Goldschmidt の報告以来、培地改善に幾多の努力

が払われたにもかかわらず、いまだ一般に通用できる方法が確立されていない。最近、Grace T. D. C. により Cell-line での培養株確立の報告例があるが、胚子培養を含む組織、器官培養では、なんらかの生物材料を加えないと発育、分化が起きないという段階で、カイコでは高見氏が初期胚子を用いて生理的塩類溶液と養卵抽出液を培地に蚕体完成直前までの発育に成功している。

筆者は養卵発生生理を調べる手段として培養胚子を用い、培地に添加する生物材料によって胚子の発育、分化がどう異なるかを比較検討した。

その結果家蚕胚子は発生初期に分化決定するモザイク卵で、この初期胚子を培養する場合、培地に加える生物材料によって発育を異にし、胚子の発育を規制する要因が卵黄側にあると推論された。また、培養胚子は発育阻止物質がない限り種特異性を示さないで発育することが認められた。

(筆者：こばやし・まさる、信州大学繊維学部繊維農学科、学蚕8)

昭和42年度上田繊維科学振興会助成・成果報告

家蚕の中腸核多角体病に関する研究

山 口 邦 友

家蚕の中腸核多角体病は田中ら(1967)により発見され病名が与えられた。著者も別の機会に本病ウイルス系統を発見したので、その特性を明らかにするための実験を行なった。

本病の多角体形成場所は主として中腸の円筒細胞の核内で、数は1核に1~5個のことが多く、形は一辺の長さが2.5~22.5 μ の正6面体であった。なお多角体は円筒細胞の核に形成されるとともに同一細胞の細胞質にも形成されることがあったが、この例は壮蚕期において頻度が高い傾向であった。本病ウイルスと細胞質多角体病ウイルスを同時接種した結果、細胞単位で明らかな干渉現象が認められた。

本病ウイルスを経口接種した後、温度を異にして飼育した結果から、高温が多角体形成に強い影響を及ぼすことを知った。多角体は25°C区では正常な6面体を示したが、30°C区では球形その他の不正形を呈した。35°C区ではほとんど形成がみられずウイルスの増殖も少なかった。

正常多角体の形成された病蚕に30°C、35°Cの高温処理を加え経時的に多角体の形状を観察したところ、多角体は生体内で著しい変化を起こすことが明らかになった。すなわち30°C処理では正常多角体は解離し、同一核内に不正形多角体が形成された。35°C処理では2~3時間後には多角体の染色性が失われたが、骨格部分

幼児教育から

大学進学教育まで

佐久高等学校
伊那女子高等学校
長野大学予備校
長野・安茂里・昭和・幼稚園
上田・小諸野岸・しらかば・さゆり・幼稚園
長野・上田・松本・ホームスクール

財団法人 信 学 会

長野市岡田町
電(02622)(6)4196代表
郵便番号 3 8 0

をなしていると推察される構造がみられた。

これまでの実験で中腸核多角体病は他の多角体病（細胞質多角体病、膿病）に記載されていなかった特異な性質を有することがわかったが、その病理については更に研究したい。

（本研究は東大有賀，宇大岩下両教授ならびに埼玉蚕試の上司各位の指導をうけた）

（筆者：やまぐち・くにとも，埼玉蚕試，学蚕2）

昭和42年度上田繊維科学振興会助成・成果報告

蚕 卵 の 光 沢

滝 沢 達 夫

カイコの卵は品種により，また環境条件によって着色状態がことなることが知られている。しかし，これを外視的に計量化して測定した研究はない。そこで私は三次元変角光度計を用いて，漿液膜色素に主として起源する蚕卵の色調を光沢の面から測定してみた。

日124号と支115号の越冬卵を25°Cで孵化直前まで保護し，光線照射区と暗区とにおいて，毎日一定時間に光沢度を調べた。

光線照射区では両種とも出庫当日から4～5日目において極度に光沢の減少がみられるが，8～9日目頃にはやや増加する。全体的にみて経過日数が進むにつれて光沢度が減少する傾向がみられた。

暗区では両種とも光線照射区のものとはほぼ同様に日数が経過するにつれて光沢度が減少するが，とくに日124号では光沢度が多少変動することがみられた。光線照射区と暗区を比較すると光沢度の測定値は後者の方が前者より，大きい。孵化後の卵殻自体の光沢度は両種ともほぼ同じであった。また，孵化後の卵殻自体の光沢度は生卵よりも低い値を示した。これにより蚕卵内の色調変化を光沢度で評価することが可能である。

（筆者：たきざわ・たつお，信州大学繊維学部共通講座学蚕6）

養蚕工場の誕生！！

機械化養蚕への出発！！

弊社が既に完成実用化した自動飼育機械

・ 壮蚕用自動飼育装置

半自動式……1人10箱担当，協業経営用
全自動式……1人20箱担当，企業経営用
小型個人用…1戸10～15箱飼育，個人経営用

・ 稚蚕用自動飼育装置

貯桑室→自動剥桑機→ホッパー→コンベアー→
自動給桑機→蚕座まで，一連のコンバイン方式

・ 稚蚕用簡易給桑機

従来の箱飼い，箱飼いの給桑自動化

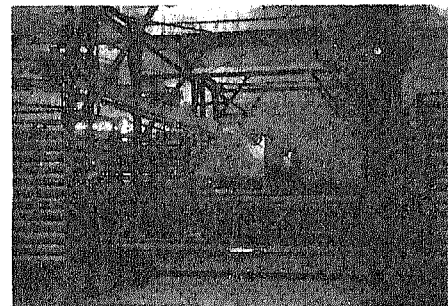
・ 自動調桑機（壮蚕条桑用）

桑葉もぎ取り式太条部除去

・ 自動大型改良剥桑機

大型飼育所用，能率3倍以上


・ その他各種の飼育機械，器具の受注を致します。



稚蚕飼育工場

愛媛県広見町養蚕農協（本年3月設置）

信大繊維学部，農林省，全養連，各県蚕業試験場のご指導とご推奨を賜っております。

 信光技研有限公司

長野県上田市常入1166（産業通り1丁目）
TEL 上田 ㊦7135 ㊦0031（夜間専用）

さん

石倉先生ご夫妻来田の記

香山 清 和

5月16日紡三同級会一同、といっても妻2人を加えてタッタの6人で富士見台の石倉先生宅を訪問した時、ご夫人から6月2日に石倉先生ご夫婦がご子息謙一氏と共に上田の甥星野一郎氏の新宅へ見えられると聞いたので帰田すると直ぐ小林尙一氏に連絡し来田日時、滞在予定の確認、歓迎方法などを母校に居られる便を考え同氏に一任した。その連絡により6月2日2時17分急行志賀で到着される石倉先生ご夫婦ご子息謙一氏を小林氏、星野氏共に出迎え星野氏の自宅まで同行した。翌3日小林氏のご夫婦を案内して市内及び大学内を巡回し昼から千曲会館で会食し先生が母校勤務当時から知っている人々が多数参加し講堂前で記念撮影をした。参加者は下記の諸氏である。(敬称略)

山口定次郎、宮原大正治、湯原諄、大谷隼人、会田源作、白井要範、香山清和、竹内善吾、小林甫、遠藤恒久、羽島不二夫、小林尙一、石倉先生、同ご夫人、星野一郎、川合亨、小山よし子。

4日は市内袋町秀蘭(以前紡織科勤務の山田俊三氏経営で最近新築されたばかりの店)においてさつき会の面々即ち石倉先生が母校に居られた当時先生の下で紡織科に勤務した人々が主として集合し会食した。出席者氏名はつ

ぎの通りである。(敬称略)

石倉先生、同ご夫人、ご子息謙一氏 上野(武井)きく、前島(関山)琴子 帥岡(小林)歌子、渡辺(小林)久子 河原(柳沢)ふみ子、竹内(宮下)きさ、北沢さわい、野田(伊藤)登、関戸(一柳)美佐雄、小林清丸、佐藤一竹内孝三、香山清和、山田俊三。

会食の間に何十年か前のお互に美男美女であった当時の思い出話を時を過し別室で記念撮影をし再会を期して散会した。

5日夕方には石倉先生ご夫婦に小生宅にお疲れで迷惑と思ったがご来駕を願い夕食を共にした。こうして大体順調に進めた先生ご夫婦に対するおもてなしも幕切れが尻切りととんぼに終り誠に申し訳ないと思っている。それは先生達の帰京される日時の確認が不十分で8日の1時34分急行志賀号と聞いたような気がして駅へ行ったら居られず、その後直ぐ星野一郎氏宅を訪れたら留守で一切不明、既に出発された後という訳である。初めのうちだけお取持ちし終りはほうたらかしにしたような結果となった事をくれぐれも先生にお詫びします。先生にはお年とはいえまだまだ大丈夫、これが最後でなく今後上田へ何度も来て下さるよう祈り且つ待っています。

(筆者：かやま・きよかず、紡3)

千曲会・女性のつどい

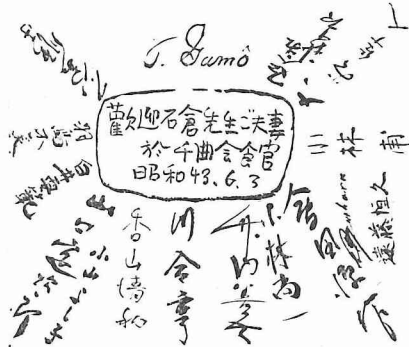
荻原 清 治

つじ 映山紅の花が、泉水にあざやかな

色をおとし、桜葉の緑が目にしみるように映えている
陸月も27日、千曲会館で本年度の女子千曲会が催された。集うもの30有余名、白井美明先生、町田博先生と私が出席した。学

内で開かれたのはこれが初めてとのことに驚いた。聞いて見ると本会にも不義理をしているのと、母校への足がかりがないので気にしていながら今日になった由。本年の幹事をしている井沢葉子さんと、金井節さんの肝煎りでこの会合が実現したのだ。参会した皆さんはそれぞれ立派となり、それでも10年前20年前、30年前の乙女ざかりの面影がのこっており、名前を言われると、その頃の姿が想い出されて来た。会の始まる前に学内を案内した。途中で若い教授に出あったところ会員の一人が「先生しばらく」と挨拶をした。この若い先生に教わる筈がないので聞いてみたところ御子息が母校に入学しこの先生の研究室で卒論をやり現在大学院に在学とか、それぞれの方々の子供さん達がみな立派に生長して、社会で、また家庭で活躍している様子、自分の老いたことを痛感した。

会議は固苦しくなく談笑のうちにはこばれ、上田で寿司の草分けの武蔵野寿司と、最も新しい某店の洋菓子をいただきながら話題は母校に学んだ頃の憶い出話に時のたつのも忘れ勝ちだった。女性ばかりの会合なのでアルコールぬき、先生方いささか手持無沙汰。幹事の発案で自己紹介、男性のように金もうけの話、遊んだ話などはなく、若い頃の職場の話、戦争を体験した年輩の人は家庭の話、何不自由なく過した人、戦争によって苦難の道を歩んだが、今は子供さん達も立派に生長した話など、哀楽さまざまなもので、笑ひ楽しみ、またしみりとした話などで



て、ほんとうに女性の会らしい雰囲気
にみちていた。そしてしまいには私が最
近、雨後の筍ならまだよいが雑草のよ
うに生れて来る新しい繊維の名前や宣
伝文にごまかされないようにと、これ
らの繊維に対する正しい常識について
解説をして会を終った。実に蜿蜒5時
間の会であった。今後、皆さんが異口
同音にこんな素晴らしい楽しい会とは思
わなかった、出席してほんとうによか
った。来年もまた是非やってもらいた
いと話しあいながら記念写真を撮り、
わかれがたい心をのこしながら三三五
五帰途についた。当日の様子を充分表
現出来ないが、写真を見て会の楽しさ
を想像して下さい。今回欠席の方々に
は次回は是非出席して下さい。

席上、提案がありこの会を女子千曲
会と呼んで次の総会に提出してもらっ
て支会と同様に扱ってもらおうと言
うことになり全員賛成したことを付け加
えておく。

本日の幹事、井沢さん、金井さんご
苦勞様でした。

〓泉石に山吹の花こぼれけり、

(筆著：おぎわら・きよはる、糸12)

研究の空間にて

清 水 治

昼休みにテニスを楽しむ人が多かっ
たが、最近野球も盛んになって来たよ
うだ。私の講座でチームをつくった。
教授と助教授の苗字から一字ずつもら
って「山長キャチャーズ」男らしいチ
ーム名である。全員を集めて、辛うじ
でできたチームであるが、舌先き
で野球をするかぎり、その名に恥じな
い。投手兼4番打者に立候補するヤツ
がズバリである。しかし、グラウンドで
試合をしてみたら、たよりにならない
者ばかりであった。カラ振りをする、
ボール球を打つ、筆者を先頭に打てな
い打てない、アンな打てないチームを
見たことがない、と言ってもいい程で
ある。それでも2戦して2勝、10対5

6対5と点をとれるところが草野球の
おもしろいところだろうか。2勝のう
ち1勝は「ビール争奪戦」からであり
貴重な戦利品をもたらしてくれた。そ
れで「またビールを……」と意気が上
っているところ、秋はもう終りに近づ
いているようだ。

卒論生と言うものは、入れかわり立
ちかわり、種々な人間が入って来ては
出て行くものである。私のころと比べ
たら、当研究室の今年の4年生は真面
目であり、実験に熱心で勉強もよくや
るようだ。しかし、彼等と共に行動し
ていて、フト、「この人達にはついて
行けないナー」と思うことがある。今
年の4年生は戦後に生れ、戦後に育て
られた人達である。と言う私も戦前に
生れたとは言え、戦後の教育を受け、
彼等より2年だけ年長であるにすぎな
いのだが。

先日、友達が手紙の中で、若い人達
をつかまえている話をしてみたが
全て話が合わず閉口したと言ってよこ
したが、私と彼等の間に、それと同じ
ことがあると言うのではない。話をし
てみても、その内容は2年前に私達が
やったものと大きな差はないし、彼等
の言動の中に一いささか年配者じみて
いるが4年生当時の私達がやった言
動やしぐさと、そっくりそのままのも
のがあったりして苦笑する時が多くあ
る。しかし少なくとも、彼等の言動の
表面にあらわれて来るアノ陽気さは、
良かれ悪しかれ当時の私達にあったも
のではないと思う。そのことは、ある
いは私の研究室の人達に限ったことか
もしれないが。研究室の中に、野球チ
ームをつくったり、昼休みギターをひ
いたりする雰囲気をもたらしたのは、
確かに今年の4年生である。私達には
なかった、あるいはあったとしても彼
等程でなかった、その性質に、一種の
うらやみをもつと同時に、人は移り変
って行くのだナーと思う。

(筆著：しみず・おさむ、繊維農学科
大学院生)

流れ星は東の空へ

内 川 修

英語に「流れ星は願いをかなえる」
という迷信のようなものがあります。
多くの星が静かに輝いている中を、た
だ一つ、それもまれに流れてゆく星を
見るとき、不可思議な感情からそのよ
うな迷信を抱く人もいたのでしょう。

雨雲でおおわれた空、すべてのもの
の影を無限にも長くするような太陽の
ある空、とうもろこし畑の果てと空の
果てが線を形作るときの空、そんな空
の下のある一点から他の一点へと忙し
く動き回った日々、それらは、あのア
メリカでの7、8月の2ヶ月間でした。

「人は共に生活することにより共同
生活の仕方を学ぶ」という標語を掲げ
直接的な手段、すなわち直接に語り合
い、直接に膚を触れ合いながら異なっ
た国籍を持つ人同志が相互に理解を深
める、そのような理念の下にある「国
際生活体験」なる名称の団体が主催す
るプログラムに参加しえたことは大き
な意義があったと確信致します。

実際の場においての英語会話の訓練
ということもあったでしょう。しかし
それよりも「人間同志の心の触れ合い」
を求め、またそれを長く保っていきう
るかということの方が、常に私たちの
心の中に宿っていました。

ともあれ、長くも、あるいは短くも
あった生活の場は、アメリカにおいて
得られたのでした。

男性6名、女性5名からなるグルー
プは、「大学滞在」、「家庭滞在」、「大
都市滞在」、「バス旅行」を、私たちが
感じらる限りの「アメリカ人の親切さ
寛容さ」に包まれて消化し尽くしまし
た。

時速百キロメートル以上で走るバス
(それにしても、サンフランシスコ、
羽田間の飛行機での14時間はあっけな
い幕切れでした)の中で、ある街角で
緑したたる芝生の上で、あるいは見も

知らぬ家の一室で、「ヤア、こんにちは」、「ごきげんいかがですか」と言いながら、手を固く握り合うとき、そこには、ささやかではあっても美しい感情が流れていました。

よく折り鶴をしたものですが、老若男女を問わず、皆一生懸命に折ろうとしていました。言葉だけで折り方を説明するのは不可能でしょう。赤、黄、緑あるいは金の色紙を用い、手をとって説明しながら、ある一つの芸術品を作りあげる過程は大事なものであり、ようやくにして作りえた時の人々のうれしそうな顔は、単に折り鶴の美しい存在からのみではないでしょう。きっと、あれらの鶴は多くの家庭で元氣よくはばたいているでしょう。

「家庭滞在」は、オハイオ州のクリーブランドの近くにある「オルムステッドフォールス」という村にある「最も典型的な中流家庭」で行いました。年収15,000ドルの商業芸術家、奥さんそして一人の息子の家族構成、自動車2台、先生で囲まれた家、共同ではあってもプールを持つ家、後に小川が流れ、野いちごの灌木の茂る家、そんな家では、近所とのうるさい付き合いもなく、すべての外界からの騒音からのがれうる、またはしゃだんしたとも言えるような環境を見出せるでしょう。私を迎え入れるにしても、まさに「余裕」という言葉から生じるすべてであったでしょう。常に浮かべる「微笑」「自分の好きなように」という「言葉」しかし、3週間余の共なる日常生活の中には、「父さん」「母さん」「ノーム」（私の弟の愛称）「サム」（私の愛称）、そして「ユー」という言葉が、スラスラ口をついて語られるとき、ほのぼのとした感情は心の奥まで流れていました。そこには、「余裕」という言葉以上の何物かがあったと思いますし、それは、今も、またこれからもずっと存在し続けるものとも思います。

「大学滞在」として、2週間をネバダ州立大学で行ないました。夏季休暇

中とは言え、多くの一般の人々が講義に出席していましたし、夜間の授業さえありました。おりしも、判事の全国大会が大学の構内で開かれており、150名ばかりの判事が、家族同伴で各地から来て、ある家族は大学の寄宿舎で生活しておりました。寄宿舎の中は、赤ん坊の泣き声まで聞かれ、私たちのいる間、だいぶにぎやかでした。でも、幸いなことには、その人達との会話を通じて、アメリカ各地の様子を知ることができ、また多くの親しい友を得ることもできました。大学の構内、大学のある町「リノ」の通りも、灌漑によって芝生は青々とし、夕方になると、どこからともなくギターの音に合わせて歌う声が、沈まんとする太陽をいただく丘に流れてゆきました。それは、いつも9時頃であったのでしょうか。

太陽を追いながら走るのもバスであり、また太陽から逃げるように走るのもバスでした。バスを利用する限り、アメリカでの旅はまことに単純明快です。果てしもない広野の中を、東西、南北に一直線に走り、バスの行く先さえまちがいなければ、2日でも3日でも寝て過すこともできます。そんなバスは、私たちに別れの悲しさを与えてくれたのです。別れねばならない人の距離が、1メートル、10メートル、より100メートルとなるに従い、複雑な思いは、より増してくるのでした。そんなときほど、「サヨウナラ」の言葉を悲しく感じたことはなかったでしょう。

「サヨウナラ、マタノアウヒヲ」「キット、マタキテクダサイ」政治、宗教、あるいは経済についての話し合いが皆無だったわけではありません。それらが、どの人にとっても大きな関心事であり、日常生活につきまとう大きな問題であるでしょう。

しかし、私は、最も素朴な問いを発し続けました。すなわち、アメリカ人と生活し、共通した感情、生活の知恵を通して、自分自身、いかに「知恵

をより付けうるかということです。問いに対する答は、いまだ出ていないかも知れません。しかし、あの2ヶ月間を将来において、10年間にも、20年間にも感じうるためには、アメリカにおいて心と触れあった人々との間において、常に心の交流を計ってゆくことが必要でしょう。アメリカ人の日常生活を、まがりなりにも知ったいま、またその生活の中に潜む、目に見えない問題に気づいたいま、いかなる大きな問題も、より低次の世界から考えられるでしょう。求めたいいかなる小さなことも近い将来において、大きな果実となることを願わずにはおられません。

こんなとき、旅も終わりに近づいたある夜明け前の空に、純白とも言いうる長い尾を伴った星が、東のかたへ「スッ」と消えていく光景が、今も眼前に現われてきます。アメリカでの多くの人々も、それを見たに相違ありません。共に同じ願いをこめて。

（筆者、うちかわ・おさむ、繊維機械学科4年）

学術会議

有権者の

皆さんへ

第8回日本学術会議議員の選挙の締切りは、きたる11月25日になっております。

当学部からは候補者はでおりませんが、有権者の方々には絶対ご棄権なさいませう、締切りまでにご投票くださいませうお願いいたします。

上田寸描 学園あらかると

秘蔵の竜馬書簡十通

今年は明治百年、各地で記念行事や維新史の再検討が行なわれているが、上田市大手町の医師三吉敬蔵氏（元上田蚕専教授故三吉米熊博士長男）宅には当時の勤皇家たちの手紙など未公刊資料がたくさん秘蔵されており、今後の維新史の研究に重要な参考資料として脚光をあびるものとみられる。三吉敬蔵氏の祖父は長洲・長府（いまの山口県下関）毛利家の家老三吉慎蔵といえはうなずかれる方も多いと思う。テレビドラマ「竜馬が行く」の例の寺田屋の事件でおなじみの勤皇派の武士である。三吉氏宅には、慎蔵の維新前後の事情をつづった詳細な日記や坂本竜馬の手紙十通のほか、三条実俱、中間慎太郎、桂小五郎、大山巖、山県有朋、乃木希典ほか維新で活躍した人々の手紙が秘蔵され、また坂本竜馬の写真など珍しい歴史資料がたくさんある。

菅平ダムいよいよ完成

菅平ダムは、県企業局が、昭和41年から小泉・真田町大洞に建設を始めた多目的ダムである。工事も順調に進み本年12月から送電も開始される。高さ41.8m、基礎の厚さ37.6m、上部の厚さ4mのコンクリートの壁を149.7mにわたって築き、常時345万1千トンの水を貯めておき、上田市の上水道用水や真田町、東部町、上田市などの農地のかんがい用水、発電などをおこなうというもの。満水時の人造湖の表面積は約20ヘクタール、松原湖や白樺湖とはほぼ同じ面積で、観光の新名所が誕生する。このダムの建設がはじめて計画されたのは昭和28年で当時は戦後の食糧不足を解消する農業用ダムとする考えであったが実現せず、いま、ようやく7億7千万円をかけた大事業が完成するところである。

秋も深くなり県内各地の初雪だよりも聞かれるようになって来た。学内も大学祭の準備などであわただしい雰囲気である。

4月からの学内行事等は次のとおりである。

昭和43年度入学宣誓式 信州大学全学部の新入生の入学宣誓式が4月13日松本市市民会館で行なわれた。これに先だち松本の教養部で1年間の教養課程を終えた新2年生のガイダンスが4月10日本学部で行なわれ、翌11日から授業が始まった。

一方、大学院繊維学研究科の入学宣誓式も本学部第1会議室で4月17日に行なわれた。おのおのの人数は次のとおりである。

学科別	1年生	2年生	大学院生
繊維農学科	27	27	3
繊維工学科	46	43	—
繊維工業化学科	39	39	10
繊維機械学科	38	34	5
繊維化学工学科	47	51	1
計	197	194	19

昭和44年度大学院入学試験 これは10月4日行なわれ、繊維農学専攻5名、繊維工学専攻3名、繊維工業化学専攻10名、繊維化学工学専攻5名が受験した。

第10回3大学体育祭 本学部と京都工芸繊維大学、東京農工大学の3校で開催する例年の3大学体育大会も今年で10回目を数え、本学部主催のもと、5月25日、26日の両日にわたって上田市内の市営会場や小中高校の各コートで各種目の競技が行なわれた。競技種目は空手、野球、卓球、サッカー、バドミントン、軟式庭球、弓道、剣道、バレーボール、バスケットボール、柔道、陸上競技、硬式庭球の13種目である。信州大学は総合成績23点で1位となり、続いて京都工芸繊維大学が22点

で2位、東京農工大学が18点で3位の順であった。

職員リクリエーション まず6月1日の開学記念日には本学部職員約100名が南志賀温泉郷へ2台のバスに分乗して出かけた。途中須坂臥龍公園に立ち寄り、山田温泉で昼食後帰路についた。翌月7月20日、21日の2日間は松本に於いて本部主催のもと、信州大学職員リクリエーション大会が開催された。種目は野球、軟式庭球、硬式卓球、バドミントン、ソフトボール、弓道、将棋の種目で、それぞれ教養部および医学部の会場で日ごろ鍛えた腕を競い合った。

9月28日には本学部職員のリクリエーション大会があり、野球を主としてソフトボール、庭球、将棋を皆が楽しんだ。野球の参加チームは各学科と本館事務および教養共通学科の7チームで決勝戦は激戦の末繊維化学工学科が繊維工学科を降して優勝した。

繊維学部大学祭 今年は11月1日から5日まで開かれる。1日は前夜祭で上田名物となっている仮装行列と酒宴パーティー、2日が上田市市民会館でのフェスティバル、3日は学内開放、4日は合唱コンクールとシンポジウム最後の5日は上田近郊の小母さん達が楽しみにしている運動会だが生憎この日は火曜日である。

学長選挙 信州大学の新学長に元教養部長の池田雄一郎教授が選ばれ、8月12日付で発令された。前学長は三村一氏。

学内人事

(43年4月1日発令)

久我 修 教授に採用 (繊維機)
竹田 邦彦 教授に配置換 (繊維工)
山本 浩之 助手に採用 (高分子)
飯田 一 “ (繊維機)
大原 啓司 “ (“)
小林 俊一 “ (“)
矢彦沢清允 講師に昇任 (繊維工)

(43年4月30日発令)

富士谷 武 退職 (繊維機)

(43年7月1日発令)

坂口 育三 教授に昇任 (織工化)

近田 淳雄 助教授に転任 (織工)

(43年8月1日発令)

早川 忠雄 教授に昇任 (高分子)

海外留学・出張

後藤 春雄教授 昭和42年9月1日から43年8月31日までアメリカ

篠原 昭助教授 昭和42年9月26日から43年9月25日まで連合王国

松尾 卓見教授 昭和43年4月15日から43年9月4日までアメリカ

黒岩 茂隆教授 昭和43年9月1日から43年9月27日までスペイン

日本繊維機械学会信越支部
第5回総会、講演会開催

去る10月12日長野女子短期大学において恒例の信越支部総会・講演会が開催された。当日発表された研究の中には英国より帰国されたばかりの篠原博士による「シーファークのフレキシオメーターの理論的研究」をはじめ多くの有益な発表が行われ、ひきつづき下記講演会が催され盛会裡に終了した。

・繊維製品消費科学に期待するもの

旭化成・繊維研究所次長
工博 池田佐喜男氏

・今後の繊維工学に望むこと

有隣館美術館々長

藤井 守一氏

校内各駅停車

3. 繊維工学科のプロフィール

5年程前、時代の要求に答え製糸学科が解体し、繊維機械学科がうぶ声をあげた。そのため製糸学科と紡織学科の教官はそれぞれの専門に従い、繊維機械学科と紡織工学科に別れた。その後全国新制大学の例にならい、紡織工学科は2年前名称を繊維工学科とあらため今日に至っている。

現在5講座より成りたち毎年50人ずつの学生を受け入れている。各研究室とも8月末日には就職は全員内定し、卒業論文にとりくんでいる。

それでは繊維工学科を階を追って紹

介しよう。建物は繊維化学工学科と一般講義室よりなるT字型で3階建の校舎の東側にある。

先ず目に入るのは玄関の入口に沖繩より本学出身の緑間武氏の寄贈になる繊維工学科とほられた大理石の科標である。

玄関を入ると右手が事務室、堀内勝義さんと滝沢春子さんが勤務されている。堀内さんはあらゆる運動をこなし繊維工学科野球チームのエースである部屋はいつも四季の花で色どられ、微笑を忘れない滝沢さんは学生から「春ちゃん」の愛称で呼ばれ親しまれている。

玄関の左手は繊維物理学講座、石川博教授、近田淳雄助教授、平林潔助手そして羽田文恵さんより構成されている。

石川教授(東北大・工博)は現在ポリオレフィン特にポリプロピレンの熱処理等による変形機構について興味をもっておられ、示差熱分析、X線回折偏光顕微鏡などを駆使して勢力的に陣頭指揮に当たっておられる。そのほかマニラ麻の分織に関しては白樫教授と共同で研究されており、混紡糸ができる段階まで研究を進めている。交際が広くいつも微笑をたたえ花を愛する。部屋にはいくつかの盆栽が飾られている斗酒なお辞せず学生と飲みあかす体力の持主、酔う程に陽気になり、おはこの「お七」の歌がとび出す。愛妻家である。

近田助教授(東工大・工博)本年7月工業技術院繊維工業試験所より迎えられ高分子物性論を担当している。中肉中背の頭脳明せき型タイプ、いつも唇に歌を忘れない。趣味は音楽とか、それもその筈である奥さんは芸大出のピアニストと聞く。「ポリエチレンテレフタレートの変形機構に関する研究」で学位をとられた。現在もそのテーマについて研究を進めている。

平林潔助手(信大大学院)繊維物理学実験を担当。石川教授のもとで「絹

フィブリンの微細構造に関する研究」なるテーマで研究を進めている。

羽田文恵さん、同講座のホステス、あらゆる諸事務をてきぱきとこなすので教授の信頼が厚い。誰とでも気さくに話すので学生のアイドル的存在。代々同講座は美人に恵まれるとか。

二階は表面向って右手が繊維機械第Ⅱ講座、左手は繊維機械第Ⅰ講座。

繊維機械第Ⅱ講座から紹介しよう。構成職員はつぎのようである。白樫侃教授、小林尚一助教授、美斉津利正助手、関口定教務員である。

白樫教授(東工大・工博)は昨年東工大より招かれた。東工大ではあらゆる要職を歴任され、海外視察も数回を数える。本年選ばれ学部長となった。「話しのよくわかるウルトラむいさん」との学生評・温和な物腰、熱心な指導、研究に加えあらゆるスポーツを愛する。スキー、テニスなど素人ばなれの域に達している。自転車に乗り買物をする風景を時々拝見する。研究は「織物の物性」をあらゆる面から研究しており、論文、著書は数えきれない。

しかも繊維に関することならばどの方面でも明るい。現在研究室では「綿織物の防炎加工」「ジャガードの近代化」「布地のドレープとハンドリングの関連性について」等の研究を行っている。なお現在多忙な学部長の要職につかれていますので研究室は美斉津助手(織専)がきりまわしておられる。やや頭髪も薄くなったが、スポーツできたえた体ゆえエネルギーな指導、研究を行なっている。

小林助教授(蚕専紡)製布工学を担当、囲碁は初段級、趣味は謡曲。テニスはプロ級との学生評、酒をのむと「骨まで愛して」がうまい。誰とでも気安く話し合い、世話ずきである。研究は仕上加工の面からキレート結合による改質を各種織物について行っており成果をあげている。最近は人間工学的テーマと取りくもうと意欲的なところをみせている。

関口定教務員（信大織）小林助教授のもとで実験を担当している。スポーツを愛し、身のこなしがよく機敏に行動する。気さくな人柄ゆえ学生に人気がある。研究は「織物のキレート化による改質」をテーマとしている。

繊維機械第Ⅰ講座には久間秀彦教授土屋幾雄講師、小林みつ子教務員、小林節子さんが属している。

久間秀彦教授（京大工・工博）この頃大部白髪がふえたが、40代の働きざかり。スポーツをよくするので非常に健康的な顔をしている。何事にも真剣に取組むので信頼が厚い。研究は「紡績双糸の物性」をあらゆる角度から研究し理論化を行なっている。囲碁は3段級、スポーツはスキー、テニスに興味をもち行っている。

土屋講師（織専紡）紡績学を担当、きさくで親しみ易いので学生に愛される。野口前教授同様学内の諸般の状況に大変明るい。現在繊維学部教職員組合副委員長。魚つりが趣味。千曲川の魚の居場所ならほとんど知っている。野球評論家とのこと。研究テーマは、「絹の酵素精練に関する研究」および「紡績糸の粘弾性について」であり、成果が期待される。

小林みつ子教務員（信大教）信大ワングルのO.G.、八等身美人、知的な表情がこの頃ますますさえていとは学生評。久間教授のもとで実験を担当し、研究に当たっている。

小林節子さん。土屋講師のもとで諸事務をこなし、研究を補佐している。20年以上本校に勤務する。親切で世話ずき、未だ昔日の美しさをとどめている。

なお紡績工場の方には宮原栄、香山展重、香山博技官が機械実習を担当している。宮原栄さんは紡友会のコック長、女子顔まけの腕をふるう。野球では名センターでもある。香山展重さんは狩、魚つりをよくし、夏は川に冬は山野をかけめぐり百発百中の腕前と聞く。香山博さんも気さくで、話好きの

方。

3階に昇ると計測学講座と繊維原料学講座がある。

計測学講座には沢路雅夫教授と小林宥子さんが属している。

沢路教授（現理科大・工博）温和で実直な人柄、やさしくて思いやりがあるけれども勉強のこととなると大変厳しいとの学生評。学校をでると大変よいバブりを発揮する。趣味は詩を書くこと。現在つぎのような研究に興味をもっておられる。

「半導体素子の物性と応用」「レーザ光を用いた光沢測定」「絹なりの測定」「織物の風合いと音響的特性との関係」「電気植毛」など。

小林宥子さん。沢路教授のもとで実験を補佐し、諸事務を遂行している。美人、うるんだひとみは人を引きつけるとの学生評。万事につけてまじめである。

最後は繊維原料学講座である。荻原清治教授、白井美明助教授、島田潤一教務員、関清美さん、若林陽子さんが構成職員である。

荻原教授（蚕専糸・農博）繊維工学科主任教授、蚕繭学のオーソリティ、温厚な英国型紳士。大変世話ずき、卒業生からたのみこまれるとことんまで世話をしなければすまない。バラをこよなく愛し、人情こまやかなところがある。写真はプロ級、酒、タバコはたしなまない。そのためか料理には大変明るく味覚が鋭い。時々教授みずから腕をふるいパーティを開くと聞く。現在「絹の品質改善」「セリシンの挙動に関する研究」「絹燃糸下漬の研究」「羊毛の品質改善」等の研究を行っており、定年を来年に控えながら、今なお科長という多忙な職務にもかかわらず、自から势力的な研究をおこなっている。定年の延長を望みたい。

白井助教授（蚕専糸・農博）本学部明治生れの最年少者。まじめで、根張り強い研究態度、実直な人柄故、信頼が厚い。酒をたしなみ、酔うほどに民

謡を歌いおどる。手の返しなど素人ばなれ。大変手先が器用、実験装置は一人で考案、設計、製作する。研究テーマはつぎのようなものである。「蚕繭の乾燥に関する研究」「製糸工程の化学工学的研究」

島田潤一教務員（信大織）見た感じからは大変おとなしく、スポーツマンとは思われないが、スキーは一級、テニスは本学一と聞く。電子顕微鏡を用いて繊維の構造を研究し最近ますます成果をあげている。

白井助教授の研究を助けているのが関清美さん。大和なでしこという言葉がぴったりあてはまる。中肉中背、愛嬌がある。

若林陽子さんは多忙な荻原教授の諸雑務を手際よく処理し、教授に信頼されている。大変おとなしいはにかみ屋浮世絵に出てくるような美人とは学生評。

以上簡単ながら繊維工学科の各研究室を紹介した次第である。書き落したような事も多々あると思いますが、ご容謝願いたい。最後に益々同科の発展を念じて止まない。

原 画 贈 呈

前号所載の「万座寸描」の原画は、多数の希望者がありましたので、抽せんの結果、静岡県の戸倉八峰さんが当選されました。

さ さ や

味で有名な さ さ や
皆さんのための さ さ や

上 田 市 大 門 町
TEL ② 0 1 2 8

三丹支会總會の記

[illegible]

7月6日，専売公社みぶ川寮（京都

千曲會友之印

市)で本部より北条舒正先生の臨席を得て開催致しました。梅雨空の下で出席の良否が懸念されましたが、旧職奥正巳先生、前会長石坂虎治郎氏以下飯島貞雄、宮沢岬、北沢芳樹、有賀隆一郎、林秀門、両角天、松井寛一、西嶋靖之、鹿野浩一、依田達郎、近藤伸一、松本昇、大卒、小根沢道生、菊川武、久納勝徳、小泉仁、松木文善、仲井範治、山中則夫、門井滋、村松弘一、上田一秋、西山聡、細田利行、浦重雄、池田次郎、徳永重徳、山本孝男、青本邦熙、姜柱元、吉岡篤行、清水貞雄、榎本誠治氏の計37名が出席しました。始めに幹事松本より約4年間京滋支会が開催出来なかったお詫びやら理由を説明し、次いで北条先生が大学の近況を説明されました。続いて宴会にうつりましたが、紹介者化5樋口昭氏(専公売社木工工場製造部長)のせいか料

香山清和

昭和33年以来続けられて来た約3回
同級会（時々休んだ事はあったか）は昭和41年の熱海開催の際、次回の幹事は小松君、信州で行う事が決定された。ところが小松君からその時期になってもさっぱり音沙汰がない。何かの序に聞いて見ようかと考えていたら宮本君夫人から軽い督促の音信に接した。それで始めて現実的に考えてみると少し前から浜君夫人が病氣中であるので、もう少し様子を見た方がよくないかとも考えられたので、その旨宮本君夫人に返事を出し小松君には督促しなかった。それから半年位経った頃、突然確氷君の死を知ったのである。早速、浜君、小松君、宮本君へ通知したら宮本君から今回の同級会は東京付近で行い確氷君を弔問してはどうかとの提案があり浜君、小松君の賛成を得たので、小松君が幹事の信州での実施は次回に延期し今回は宮本君が幹事で東京付近でやる事になった。始め5月初旬の予定であったが小松君が御柱祭で5月連

長野市 県町 5 2 4 電代(2)1201
東京都中央区銀座1の5北野ビル 電大代(562)2331
大阪市北区堂島浜通り1の25新大阪ビル 電代(34)2366
松本・高田・ジャカルタ

休の頃まで手が離せないとの事なので5月中旬にやる事とした。そして宮本君のお骨折で5月15、16両日実施と決定した訳である。

僕は15日8時6分上田発急行第一信州号に老妻と共に乗車し赤羽、池袋、新宿と乗換え小田急特急12時30分発に乗り湯本着1時50分、橋を渡って少し歩いてセイコー箱根荘に至る。これは宮本君のご息子が精工舎に勤務して居られる関係でご配慮を得たもので、鉄筋コンクリートの立派な宿舎で旅館街から離れた閑静な見晴しのよい場所に建てられている。集合時間の3時より大分早いので真先かと思ったら案に相

違し小松君が到着していて驚いた。会合の帰途来られたとの事である。3時カッカリに宮本君夫婦、それから少し遅れて浜君来る。6時から懇親会開催酒はあまり廻らず、碓氷君の思い出話からお互いの若かりし頃の話に花が咲いた。人間も昔話を喜ぶようになっては駄目であると思つづく。碓氷君の死に刺激され、もうあまり長生きも出来ないから同級会を1年に2回やろう、そして本年秋小松君が幹事で信州でやる事に決定した。浜君から夫人は大分快方に向っており秋の同級会には出席出来るかも知れないと聞き非常に嬉しく思った。小松君から老後の思い出に夫婦同伴で世界一周旅行をしようではないかとの提案があり貧乏人の僕はびっくり仰天し、ハワイか、香港か、沖縄位で我慢しようではないかと折衷案を出した。

翌16日は9時朝食、野口氏、欠席の小松、浜両夫人に寄せ書を書き、それから記念撮影、付近の早雲寺に詣で見事な庭園に感心し宿を出て湯本発9時45分の急行電車で新宿へ行き国電で高田馬場へ出て西武電車により東伏見下車、あやふやな僕の案内で碓氷君宅へ行き未亡人に会い霊前へ焼香をする。間もなく辞しバスで西武電車石神井駅へ行き昼食、ハイヤーで富士見台へ出て石倉先生を訪問する。この行動は始

め計画にはなかったが、朝寄せ書を書こうとしてそれより近くへ行くので訪問しようではないかと急に思いついたものである。先生の家は婦人会の会合で入れず隣りのご子息の家で先生にお会いした。先生は思ったよりお元気で意を強くした次第である。ご夫人にも一寸会い6月2日にご夫婦とご子息が上田へ行かれる事を聞いた。浜君は事務所からの電話で間もなく帰った。その後暫く話した後辞し富士見台駅から乗車、池袋へ出て一同と別れ国電で上野へ出て夕食をとり上野発18時50分の急行第4信州に乗り上田着10時13分で帰宅した。

この記事は幹事である宮本君に書いて貰う積りであったが又おだてられて僕が書く事になったので同じような書き方になり興味を削いだ上に加えて価値を少なくしたのは8月発行予定の千曲会報が中止され10月発行になった事である。其処へ小松君と約束した秋に信州でやる同級会も流れたようでニュースに偽りありという事になり申し訳ないと思っている。

繊維機械学科卒業生のつどい

かねがね繊維機械学科卒業生のつどいをもちたいという声がかかっていたが仲々実現の運びにいたらなかったもので、去る5月25日丁度日本繊維機械学会の発表会のあと大阪駅前富国生命ビル屋上のビヤガーデンで第1回のパーティーを開催した。当日の出席者は下記の通りで総員29名。急な催しにもかかわらず大阪近郊に在住する卒業生の殆んど全員の参会をえて盛会そのものであった。機械科は歴史が新しいだけに参会者の大部分が20才代、若さのみなぎった新鮮なふん囲気のなかで、それぞれ意欲的な仕事の話題などが交換され、ついには商談までとび出すといった面もみられ、実に有意義な会であった。散会にあたり互いに名残りを惜しみ、ついには帰校する先生を大阪駅プラットフォームで胴上げしてそれぞ

れ健斗を祈念しつつ解散した。

出席者

(機1回) 青木邦熙、石橋武、伊藤克章、鎮八郎、西田直温、納田利行、吉永健一(大学院1回)

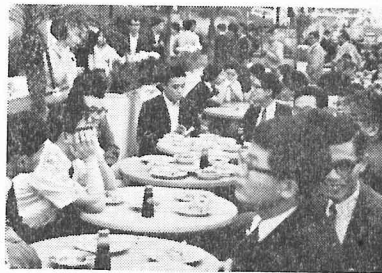
(機2回) 青木勉、宇鷹修一、竹内健、宮島英敏、山田茂雄

(機3回) 浦重雄、岸田正孝、熊木昭、高島泰行、高橋信誠、塚田進、伴藤勲

(機4回) 池田明文、種谷剛、水本博晴、森豪、蔽明

(学校側) 村上尙、青沼茂、小林俊一(大学院生) 井上統允、藤井直

(井上、藤井)



糸31回(S18)22年目の集い

去る8月24日(土)夜、懐しの別所温泉柏屋別荘に北は山形、南は岡山から集り来る面々19名、家族を含めて総計30名。……25年の才月は一宵、いや一瞬にして旧に復する(第1回は22年3月上山田温泉)。戦中戦後の烈しい風雪に耐えぬいた苦勞のキザシはお互の心にはあろうが面には出ていない。頭髮も多く黒い。あの秋別れしは昨日の如くに思え、又散会する時も三々五々、明日又教室で会えるかの如くであった。

……とにかく静かだったのは萩原先生の挨拶中と故人8名の黙とうの時位のもの、13の幹事代表挨拶に始まり前記のことに次いで相野田御大のリーダーによる乾盃、オバーの司会による各人のユーモラスな近況報告、欠席者の便り、特にツ瀬の長い手紙を朗(漫)読すれば涙と笑の交錯、校歌、寮歌の高吟。酒も料理もキレイドコロも全く眼中になし、談らん又談らんと夜半午前

2時半までつづく……。

集ったメンバーの職業の一端を、示せば又感慨深く、製糸、織物、金融、公務員、教師、医師、農園、石油、自動車、大学、出版等々、欠席者には米屋、自衛隊、ビル管理等多種多様、エリートシルクマンの姿は少なし。しかしながら質実剛健常田魂は年と共に倍加の感での宴、その状況は筆では表現しがたいが、各人がそれぞれ生きている社会では味えぬ美しく嬉しく尊い風景である。平和は尊い。上田よ、学校よ、永遠に栄あれ……

翌朝のアサメシも昨夜の連続、ニギニギしくなかなか終りをつげない。別所にて一応解散、有志数名学校見学、修己寮の食堂に休憩した時は、胸にこみあげるものしきり、以降市街散策、逐次解散。

当日の出席者、荻原先生、相野田、小畑、熊谷、小松、志摩、中島(利)奈良、高岸、三村、三浦(大橋)和田中沢(32回、特参、多謝)〔家族同伴〕岡田、塩田、布施、真柄。〔幹事〕小木曾、山本(家族同伴)次回幹事は、小松、和田。又会おう諸兄お元気で!!

(OB記)

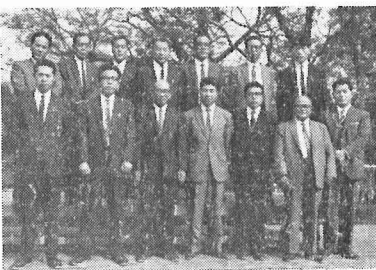


熊本支会だより

永らく延引しておりました本熊本支会総会を久しぶりに4月14日(日曜)に開催し、会するもの14名、熊本の名勝地水前寺公園横のかぶと鍋「陣屋」で加藤清正時代の肉と野菜をかぶと風の鍋で煮たり、焼いたりする料理を囲んで明日への戦に備えての料理を満喫しました。

本支会も相当会員の移動があり、総

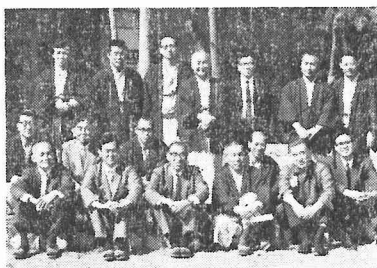
会初出席の会員も見うけられたが、久しぶりの総会とあって郡部からの参加もあり、自己紹介に続いて記念写真におさまり、上田時代を偲んで学生気分にかえて賑かな3時間を楽しんだ。今後は毎年1回以上総会を開催し親睦を深めることを申し合せ5時すぎ散会した。(林田義雄記)



神奈川支会総会記

恒例の本支会総会は古都鎌倉で4月20日開催された。会場は由比ヶ浜に近く、景勝の地にある近代建築の若宮荘であった。午後5時頃、老若30数人の会員が集り、議事に入り、経過報告、会計報告、役員選出、その他名簿発行の件、地域別幹事選定の件などが検討された。本部からは関、北条両理事が出席して、本部並びに母校の近況などについて報告し、特に蚕糸教育改善に関する問題について討議された。また北条理事は最近の高分子化学におけるキレート反応について、スライドを用いて説明され有意義な一夜を過ごすことができた。この会合で、常にただよっていた和気霽々たる空気は名支会長をはじめ役員皆様のお骨折もあるが、千曲会員皆様の団結と母校愛によるものであり、心から感謝申上げる次第です。

(関記)



山梨支会だより

このところ当支会の総会は石和温泉で開催することが恒例のようになって本年もさる5月25日の午後同所において開催された。石和温泉は野天風呂で週刊誌の話題となったこともある新興温泉郷で、信和荘は街のはずれ笛吹川べりにある。

定刻近く、ボツボツあらわれた会員は、まず豊富な湯量をほこる温泉、そこで久闊の挨拶が交され、まずは湯けむりの中が第一会場というところ。

会は、例によって鶴田支会長の本部総会出席報告をかねたあいさつ、会計報告から宴会に移り、笹本保雄、石附文吾(蚕15)両先輩の懐旧談に始まり宴たけなわとなるや寮歌となり、応援歌となる。

そして、鶴田支会長の即吟になる漢詩が朗詠され、久保田不二夫(蚕23)先輩のパッパで締めくくられるのが恒例のコースであるが、今回は宮原豊(蚕32)天野賢臣(化6)降旗孝夫(学蚕5)等初出席会員があったため、当支会としては久しぶりに自己紹介が行なわれるという嬉しい異例もあった。しかし久保田先輩の急な上京からパッパのなかったのは残念であった。

会は最後に幹事に対するハッパ(パッパにあらず)となり、年1回は物足りないからと秋に再開を決議し、会の万才を三唱して終る。ここに、前記以外の出席会員名と支会長の作を報告して、支会開催の概況とする。

更級乙男(化4)志村芳男(同)島田昭郎(農2)川久保印人(蚕36)堀岳人(蚕37)宮沢英雄(蚕38)三沢保(蚕別1)長谷川悟史(同)根本剛(学蚕1)米山光郎(蚕別7)花輪和人(蚕別9) (島田記)

総会寸感(鶴田作)

盟友喜び集ふ吾が支会
壮語漫談欣快を窮む
想は走る浅間千曲の辺
同窓の意気本会に通せむ



今日は吾が山梨支会の楽しい総会でいつもの如く会員一同万障一抓喜々として(子供の如く)集った。会ったトタンから終始壯語漫談、元氣一杯存分語り合って欣快これに過ぎるものなしの状態である。而も話は何れも学生時代に戻って想いは浅間の噴煙や千曲川の清流郷上田の空に走って母校の発展を祈ると云うわけ。此の旺盛なる意気と気持は本会迄も自然に通ずるであろう。

初夏漫吟(鶴田作)

深緑眼に染む果実の郷

遙かに吟声を聞く、初夏の蟬

雲外の霊峯我を招くが如く

鵜飼の清流滾々として走る

深緑に包まれた果実郷を夕方散歩していると、何処からともなく遙かに吟声朗々と伝ってくる、ほんとうに初夏の情景気分が味える、のみならず空高く仰げば富士山が雲上に聳えて何となく我を迎えて招いてくれる様な心地がする、而もまた鵜飼川の流れが眼の前に遠く光って映り、情景相呼応してほんとうに楽しい。

4年ごとのクラス会

「オリンピックの年には忘れずみんな集ろう」の申し合せにしたがって今回は信州でやるなら夏もよからう、8月3日母校に集合、卒業以来実に21年振りの者もいる。「ヤァしばらく!」のひとつことに学生時代のおもかげが浮んでくる顔の再会である。木造からすっかり近代的なコンクリート建てに変わってしまった母校の片すみに、懐しい上田の街角に親切だった下宿のおばさんに21年前の想い出を呼びおこしつつ実習工場など校内を一巡してホテル浅

間より出迎えるマイクロバスなどに分乗、北国街道を東へと走る。田中→小諸と標高を上げ軽井沢に近づくに従って新鮮な緑と涼風が車窓に快い。宿舎である西軽井沢温泉ホテル浅間に小休止後軽井沢スケートセンターや美智子妃のロマンステニスコートなど車窓に眺め避暑客で賑う中軽井沢を経て別荘の点在する林間をぬけ、やがて西部劇のロケが行われるという広漠な六里ヶ原をつつ走り、奇岩起伏する鬼押出しへと到着、何んとも清澄雄大な眺めではある。にわか雨におびやかされながら散歩一巡、続いて上信越国立公園の名勝地滝の白糸をたずねる。うっそうたる林にかこまれた山の中腹からいくすじもの白糸の如く湧き出る滝水のなんと冷たいことか、暫くたらずめば夏尚寒く冷蔵庫に入った様、やがて昔ながらの奥深い別荘の続く旧軽井沢の通り、街には外人避暑客の買物姿も多くさすが国際都市の感がする。宿に帰ったのはここ特有のモヤがたちこめて夕やみがせまる頃、ホテルの周囲は全く未開の原野で静寂そのもの、都会の雑踏やスモッグから逃れ、毎日の繁雑な仕事を忘れて、空気のうちまい静かな別天地で懐旧談にふけるのもオツなものである。窓下の草むらにすだく虫の音も一足早くしのびよる高原の秋の訪れを告げている様であった。一浴の後コンパに入る。「友あり遠方より……」遠くは大阪、奈良より、東は千葉に至るまで本当によくぞ集って来た。恩師古里先生(奈良女子大)同小林先生(母校)を始め、大阪より小泉(鐘紡)直江津より石田(日本ステンレス工材)

長野より小穴(西沢書店)松本より大野(尾張屋染物店主)足利より吉池(東京繊維)千葉より上原(上原産業)地元美斉津(母校)とつづく。先ず係より経過報告、級友の消息、欠席者よりの連絡など紹介あり、続いて恩師初め各自の挨拶をかねて自己紹介は卒業以来21年間の経歴、自慢話に苦心談、失敗談にでっかい抱負など、はては家族のことにまで及び、ビールびんの林立とともにのど自慢や珍芸の続出、学生時代にかえって夜の更けるのも忘れ愉快であった。信濃の国や校歌を合唱してとこについたのは深更12時を過ぎていたであろう。

翌くれば8月4日2台の乗用車に分乗して浅間高原は北軽井沢ほととぎす啼く林間をすぎ国際観光避暑地をあとにして草津温泉、快晴の浅間山麓を一巡、万座温泉、標高2162Mの白根山に到着徒歩15分にて頂上に登り白青色の水をたたえた火口湖を眺める。遠く関東関西よりバスを連れあるいはマイカーで涼を求めてやって来た人たちでごったがえしていた。清遊ののち志賀高原→渋→湯田中温泉と国立公園上信越高原のスカイラインを快適にドライブ「4年後の再会を期して長野駅前に散会したのはP.M.4時頃であった。

紡織専修科・昭和21年2月文部省の特令によって終戦と同時に陸海軍学校関係より復員した若者を平和産業である繊維関係の技術者を養成するために募集されて出来たクラスで上田繊維専門学校には蚕糸コースと紡織コースがおかれ、1クラスは各25名であったが四国、九州より関東まで全国から集っていた。全員が軍隊のめしを喰ったものばかり、クラスマッチや運動会などに軍人精神や特攻魂があらわれたりして色々な面で特殊な存在であった。戦車隊員あり、特攻隊員あり、陸士あり海兵あり、予科練あり、特幹あり、中には敵駆逐艦に魚雷をぶっ放して奇跡生還した特殊潜航艇乗組員もいた。

(みさいづ)

4年ごとのクラス会
お世話になった方々へ
感謝の意を込めて
お礼の言葉を
ここに記す
昭和43年11月1日
千曲会報
編集 鶴田作
発行 千曲会
印刷 千曲会
〒380 上田市
千曲会
〒380 上田市
千曲会

第29回社団法人千曲会総会開催のお知らせ

恒例の总会第29回定期総会を11月23日勤労感謝の日午前10時から母校第1会議室において開催いたします。本部議案は次のとおりです。支会からも奮って議案提出下さるようお願いいたします。当日は役員、支会派遣代議員は勿論一般会員も多数ご出席下さるようお願いいたします。

本部提出議案

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| (1) 昭和42年度歳入歳出決算について | (2) 定款変更による昭和43年度歳入歳出決算について |
| (3) 昭和44年度歳入歳出予算について | (4) 賛助会員の推挙について |
| (5) 会員の表彰について | (6) 役員の改選について |
| (7) その他 | |

報告事項

- | | |
|-----------------|----------------|
| (1) 一般会務報告 | (2) 厚生部報告 |
| (3) 動静部報告 | (4) 会報部報告 |
| (5) 利用部報告 | (6) 母校火災復興資金報告 |
| (7) 上田繊維科学振興会報告 | (8) 菅平部分林管理報告 |

その他

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| (1) 蚕糸教育の改善について懇談 | (2) 支会現況報告その他会員海外留学、視察報告 |
|-------------------|--------------------------|

社団法人千曲会 理事長 小林 運 美

本部だより

理 事 会 開 催

5月18日理事会開催 小林理事長、母袋、田口両副理事長ならびに理事20名出席した。

協議事項は

①定款の一部変更について—28回総会で決定した定款変更条項について附帯決議にもとづく条項内容について協議した。なお主務官庁の認可は5月中にある見込。

②昭和42年度収支決算については事業費の予算の流用について審議した。

③火災復興資金についてはその使途に対する経過報告があり学部の使途がきまってからに処理することに決定。

④会員名簿発行については11月の総会に発行出来るようにB5判横書中質上紙使用し卒業年次別を主に支会別名簿を附録すること。広告については支会の協力斡旋により募集する。現在45件広告注文がある。8月中旬に原稿を作成しめどをつける。

⑤支会交付金については支会が扱っ

ているものは30%交付還元しているが会員個人が直接本会に納入する会費に対しても10%を支会に交付還元するように総会にはかる。

⑥蚕糸教育の改善について経過報告あり活発な意見が発表された。

上田繊維学振興会理事会開催

5月30日振興会理事会を開催した。出席者は会田源作理事長、笠原正巳、田口亮平、山口定次郎、関博夫、小林尚一、隅田隆太郎、小山長雄、村上尚竹内善吾氏の各理事で、

協議事項は(1)昭和42年度歳入歳出決算について、(2)昭和43年度本会事業について、(3)監事の補充について審議した。

(2)の本会事業の研究助成は研究助成会委員山口定次郎、矢木博、早川忠男、松沢秀二氏4名の委員による審査会の結果報告があり、これを承認した。

研究助成をすることに決定した研究課題と研究員は次の6名であった。

- ・耐熱性高分子に関する研究 漆戸邦夫
- ・合成蛋白質の熱変性の研究 山本浩之

・自動糸払機による上簇技術体系確立試験 柿崎泰彦

・上田市内含鉄地下水の浄化に関する基礎的ならびに実用化に関する研究 山本満寿夫

・水生絹糸昆虫の吐糸生態に関する研究 小池 渥

・電気伝導度の温度変化測定によるイオンおよび高分子電解質に関する研究 窪田衛二

又学会講演会の開催予定については6月1日から繊維学部で開催の日本生態学会の講演会、研究発表に、又7月10日開催の化学工学協会東海支部第2回研究交流セミナーにそれぞれ予算内において補助することに決定した。

(3)監事の補充については繊維部事務長宮原大正治事務官を監事に決定した。

蚕糸教育改善について懇談会開催

8月17日懇談会は現在蚕糸業の第1線に活躍している山崎寿、池田俊郎、宮沢伝、宇治川喜平(欠席)西村国男、市川信一、土屋拓大(欠席)香田久雄、蒲生卓磨、荒木喬、岩下嘉光、坂口文吾、島崎昭典(欠席)近藤敏成の各氏の参会を得て本会役員も交えて、この

千曲会員名簿発行頒布について

さきに予告しました会員名簿はいよいよ11月1日印刷を完了し11月20日発行出来ることになりました。B5版(25.8cm×18.5cm)400頁横書で体裁は卒業期別索引付とし支会別を付録し動静を正確にした次第です。

この経費は名簿の売上代および広告料、並びに通常会計からの補助支弁で発行することになり、頒布価格は1部500円(送料を含む)に決定いたしました。

さきに各支会から予約購入部数を取りまとめでいただき発送準備をしております。まだ申込みのない方は振替用紙を利用して千曲会本部にお申込み下さい。

尚名簿発行の主要な財源となりました広告の募集並びに会員の動静調査等に各支会の皆様に多大のご協力ご尽力をいただきましたことを附記して厚く御礼申し上げます。

昭和43年11月1日

社団法人千曲会動静部

会員名簿発行委員長 松 沢 秀 二

問題についてフリートーキングを行った。初めに経過報告があり、各出席者から熱心な意見が発表された。なおこの問題について委員会を作って検討することに決定した。

蚕糸教育改善対策委員会開催

9月7日委員会を開催したこの委員会委員は竹内善吾、香山清和、宮沢伝西村国男、荒木喬、和田晋、母袋忠右エ門、田口玲、田口亮平、関博夫、小林尚一、北条舒正の各氏で小林運美理事長および上記委員出席し真剣にこの問題について検討した。

本間直人氏(蚕1)の叙勲

本春4月29日発表の生存者叙勲のなかで本間直人氏は勲4等旭日章を賜わった。本間直人氏は母校第1回卒業後郷里の組合立乙種蚕業学校に奉職し、29才で学校長、爾来同校を県営移管に併心これをなしとげる等数々の教育功勞により栄ある叙勲となった。

(宮城支会より連絡)

母袋忠右エ門副理事長(蚕23)

ブラジル視察

長野県議会議員母袋忠右エ門氏は10月12日羽田空港発ブラジル国の主として蚕糸業の実情視察に出発した。帰国は11月4日の予定である。なお上田駅

は11日朝あさま1号にて出立、在田本会員多数が見送った。

理 事 会 開 催

10月12日理事会を開催した。出席は小林理事長、田口副理事長および理事17名で9月7日、10月2日開催の常務理事会の原案により第29回総会に提出する本部案について検討し一般会務報告および各部報告事項の次に下記議案を提出審議することに決定した。

1. 昭和42年度歳入歳出決算について
 2. 定款変更による昭和43年度歳入歳出決算について
 3. 昭和44年度歳入歳出予算について
 4. 賛助員の推挙について
 5. 会員の表彰について
 6. 役員の改選について
 7. その他
- なお蚕糸教育の改善について懇談、更に支会の現地報告と外国視察報告等5時30分まで行うことに決定した。

菅平部分林管理実施

9月16日菅平部分林に標識および境界柱施行のため白井要範理事、学部から管理係長松井信、小林甫、学部会計係児玉寛、田中豊美の5名が現地にて営林署菅平担当員立会の上実施した。この部分林は紀元2600年記念事業として昭和15年12月造林したもので、面積

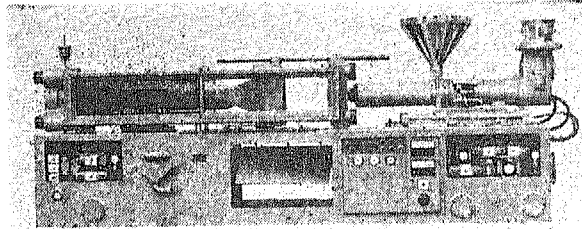
2丁8反8畝7歩、存続期間は昭和64年までである。現在成育のよいカラ松は目通り24cmに成長している。

千 曲 会 費 完 納 者

会費通算40回完納した会員は内規によって以降会費は免除となるが、今次の22名の方は40回完納された。多年本会向上発展のためご協力いただいたことを感謝いたします。

岩本 市郎	蚕 1 (T3)	愛 媛
戸倉惣兵衛	蚕 2 (T4)	静 岡
齊藤 格次	蚕 3 (T5)	埼 玉
曾山 高祥	蚕 4 (T6)	安 筑
金崎 真英	蚕 9 (T11)	三 重
中島 文雄	蚕 9 (T11)	熊 本
丸山 十吉	蚕 12 (T14)	愛 媛
井沢 喜三	蚕 16 (S4)	上 小
茅野 功	蚕 19 (S7)	〃
浜村 一彦	蚕 19 (S7)	北 信
堀川 収	蚕 20 (S8)	茨 城
石原満洲夫	蚕 3 (T5)	東 京
甲田 勝衛	蚕 7 (T9)	東 京
若林新一郎	蚕 10 (T12)	兵 庫
青木 友弥	蚕 11 (T13)	神奈川
馬場 長市	蚕 16 (S4)	東 京
永井 俊郎	蚕 16 (S4)	北 信
千葉 達人	蚕 18 (S6)	兵 庫
久保田哲二郎	蚕 20 (S16)	三 重
白田 隆夫	蚕 23 (S18)	上 小
美津津利正	蚕 専 (S22)	〃

日精の射出成形機は あらゆる産業で活躍しています



射出成形機の総合メーカー

NISSEI 日精樹脂工業株式会社

本社・工場 長野県坂城町 TEL 上田 ⑤5567
営業所 東京・大阪・名古屋・足利・広島・富山

信大教科書
自然科学書

工学書協会特約店
株式会社 西沢書店
上田原町 TEL ⑤0024



皆様の百貨店

上田・中央 **ほてりや**

基礎研究に、品質管理に…
新しい光沢度測定器

三次元変角光度計
顕微光沢計

株式会社 **城南製作所**

上田市蒼久保 (5) 0340 (代)

編 集 後 記

会報は8月に1回だす予定でしたが、19頁掲載のように、名簿の発行印刷および郵便番号調査などのために、つい欠刊いたしました。どうぞご海容たまわりますようお願いいたします。学校は新しい出発のため、毎日のように討議がくりかえされ、忙しい日が続いています。11月の勤労感謝の日には例年のように総会が開かれますが、皆さん多数がご出席ください、学内外の交流を深められますよう祈ってやみません。

次回は1月に発刊の予定です。ご投稿をお待ちしています。

編集委員 小山 長雄、篠原 昭、小林 勝
滝沢 達夫、小笠原真次、平林 潔、中沢 賢
西沢 正一、白井 要範